

十和田市現代美術館

2019年度展覧会関連イベント

「地域」アートには どこにある?

プロジェクト
アーティスト
藤井光

クロストーク

2018年

11月3日(土)
4日(日)

塩田昌哉

原田裕景

会場：
上北地方教育会館
(青森県十和田市
西三番町4-10)

朝鮮語

藤井光

目 [mē]

星野太

林曉甫



「地域アート」は どーにある?・ジグヘ

「地域アート」とは、評論家の藤田直哉氏が2014年に発表した論考の中で、近年、多数開かれている地域名を冠した芸術祭等の美術イベントを指す言葉として提示されました。その言葉に誘発されるように「地域アート」やそれにまつわる問題について多数発言がなされ、「一つの現象をつくりあげています。」との現象をつくりあげています。

「地域アート」という言葉が、いろいろな立場から、賛否両論合せて語られたことは、この領域に関わる当事者の多さを物語っています。加えて「地域」という言葉には、住民やコミュニティ、自治体、事業体、そこに湧き起くる個人的な感情までもが含まれ、それを抱く「地域アート」という概念が、拡大解釈されながら語られているのではないかと考えます。

「地域アート」と呼ばれる活動の形態も、国際芸術祭、地方芸術祭、アートプロジェクト、ソーシャリーエンゲージド・アート、サポート活動、地域活性など、少しずつ重なりあいながら、異なる性質を持つ概念を丁寧にすくい上げ、その意義、成果、可能性、問題点を洗い出すことによって、すべてがまとまって認知される現状に楔を打ち込むことが、本プロジェクトの目指すところです。

「地域アート」が語ろうとしていたものは何か。そして、その何かを「地域アート」と呼ぶべきなのか。「地域アート」と呼ばれる事象について、もう一度話をしてみたいと思います。

このトーキーを皮切りに、展覧会、様々な論者の文章をまとめたカタログ発行と続きます。

11月3日土 13時～15時

三名の論者が、それぞれの仕事から「地域アート」という言葉について考察し、その後モデレーターを含めた意見交換により、この領域の射程を探っていきます。

林曉甫
Ekiyo Hayashi

NPO法人インビジブル理事長、マネージングディレクター、
女子美術大学非常勤講師
1984年東京生まれ。大学卒業後、NPO法人BEPPU PROJECTで
公共空間や商業施設でのアートプロジェクトの企画運営を担当。
文化芸術を起点とした地域活性化や観光振興に携わる。2015年に
アーティストの菊池宏子とNPO法人インビジブル設立。別府現代
芸術フェスティバル2012「混浴温泉世界」事務局長、鳥取藝住祭
芸術ディレクター(2014、2015)、六本木アートナイト
総合ディレクター(2014～)など。本木アートナイト
プログラムディレクター(2014～)など。

藤田直哉
Naoya Fujita

文芸評論家。
1983年、札幌生まれ。
東京工業大学社会理工学研究科修士課程先端芸術
博士(学術)。著書に『虚構内存』(シン・ゴジラ論)
(作品社)『新世紀ゾンビ論』(筑摩書房)、編著に『地域アート
アートなどを調査対象とし、「美術」領域を開いた活動を続けて
いる。近年の主な展覧会にKENPOKU ART 2016(茨城県北
芸術祭(茨城)2016)、「ラフアエル・ローゼンダール・ジェネロシ
ティ寛容さの美学」(十和田市現代美術館、青森、2018)
がある。

11月4日日 13時～15時

土地・社会・人々についての深い考察に基づき制作してきたアーティストたちが、自身の活動を紹介し、モデレーターとの対話を通してその意義を掘り下げます。

金澤 韶
Kodama Kanazawa

インディペンデント・キュレーター、
十和田市現代美術館 学芸統括
熊本市現代美術館など公立美術館での12年の勤務を経て、
2013年に独立。日本の近現代における文化受容の歴史
への興味から漫画、グローバリゼーション、ニユーメディア
アートなどを調査対象とし、「美術」領域を開いた活動を続けて
いる。近年の主な展覧会にKENPOKU ART 2016(茨城県北
芸術祭(茨城)2016)、「ラフアエル・ローゼンダール・ジェネロシ
ティ寛容さの美学」(十和田市現代美術館、青森、2018)
がある。

原田 裕規
Yuki Harada

美術家。
1989年、山口県生まれ。
武蔵野美術大学造形学部芸術文化学科卒業、東京
京藝術大学大学院美術研究科修士課程先端芸術
表現専攻修了。2017年には文化庁新進芸術家
海外研修制度研修員としてニュージャージーに滞在。
著書に『崇高の修辞学』(月曜社、2017年)、共著に『コンテンポラリー・アート・セオリー』(イオスター
ブックス、2013年)、共訳書にカントン・マイヤース『有限性の後』(人文書院、2016年)など。

星野 太
Hoshino Toshi

専攻は美学、表象文化論。東京
大学大学院総合文化研究科博士
士課程修了。博士(学術)。
現在金沢美術工芸大学講師。
著書に『崇高の修辞学』(月曜社、
2017年)、共著に『コンテンポラリー
アート・セオリー』(イオスター
ブックス、2013年)、共訳書にカ
ントン・マイヤース『有限性の後』
(人文書院、2016年)など。

藤井 光
Takaru Fujii

アーティスト／映像作家。
1976年生まれ。

歴史的事象を再演するリエナクメント
の手法を用い、ワークショップ参加者とともに
社会の不可視な領域を構造的に批評する
試みを行っている。パリ第8大学美学・芸術第
三期博士課程DEA卒業。近年では、「爆撃の
記録」(東京都現代美術館)、「MOTA」(ユアル
2016 キゼノセイキ)、「南蛮絵図」
(国立国際美術館)、「トラベラー」(まだ見ぬ地
を踏むために)、「第一の事実」
(森美術館)、「カタストロフと美術のちから」(展)
(日産アートアワード2017でグランプリと
なった「日本人を演じる」など)。

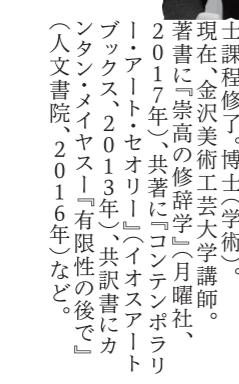
増井宏文)の個々の特徴を活かしたチーム・
クリエイションに取り組み、発想・判断・実
現における連携の精度や、精神的な創
作意識の共有を高める関係を模索
しながら活動している。



藤井光
Takaru Fujii



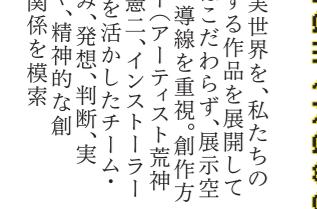
星野太
Hoshino Toshi



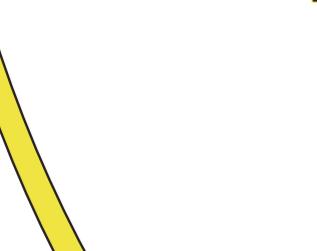
原田裕規
Yuki Harada



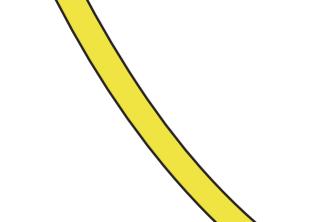
林曉甫
Ekiyo Hayashi



藤田直哉
Naoya Fujita



星野太
Hoshino Toshi



原田裕規
Yuki Harada

日程
2018年11月3日(土)・4日(日)

13:00-15:00(12:30開場)

時間

参加料

無料

定員

80名(事前申込優先)

申込方法

お名前、ご連絡先

(メールまたはFAX)
を「記入の上、タイトルに
「地域アートourke」と記載し、
左記までお申し込みください。

●メール

info@towadaartcenter.com

●FAX

0176-20-1138

会場

上北地方教育会館

(青森県十和田市西二番町4-10)

主催

十和田市現代美術館

交通案内

東北新幹線

① 東京駅→七戸十和田駅 3時間10分

→「七戸十和田駅」から
「十和田観光電鉄路線バスで35分

→「十和田市現代美術館」下車すぐ

→タクシーで20分

② 東京駅→八戸駅 3時間

→「八戸駅」から
→西口からJRバスで40分

→「十和田市現代美術館」下車すぐ

→東口から十和田観光電鉄路線バスで1時間

→「官庁街通」下車徒歩5分

青い森鉄道

「三沢駅」から

→連絡バスで15分「三沢駅」下車、「三沢駅」から
→十和田観光電鉄路線バスで30分「官庁街通」下車徒歩5分

→「三沢空港」から
→連絡バスで15分「三沢駅」下車、「三沢駅」から
→十和田観光電鉄路線バスで30分「官庁街通」下車徒歩5分

「青森空港」から
自動車で1時間30分

2019年の
展覧会情報

展覧会タイトル(未定)

出展作家:藤原

Nadegata Instant Party
(中嶋惣十・城大智+鈴田紹介)

北澤潤

会期:2019年4月1-8日(祝除)

自動車

